

国分寺市の基幹相談支援センターとともに



長畑 達也

国分寺地域包括支援センターもとまち
管理者



基幹相談支援センターの皆様には日頃よりケースを通じた連携などで大変お世話になっております。

この度、基幹相談支援センターからお声掛けをいただき、社会福祉協議会、地域包括支援センターの三者で8050世帯の支援を中心としたさまざまな課題について意見交換することができました。

私自身、長らく市内の包括職員としてさまざまな機関や専門職の方々と連携する機会がありましたが、時間をかけてお互いの「本音」を語り合うような機会はあまり無かったと感じています。お互いに同じ福祉分野の「同志」であっても各々の機関の役割はもとより、背景にある制度や積み上げてきた専門性など多くの「違い」があると感じています。今回のような意見交換や情報共有の機会が継続していくことで、お互いの「違い」や「強み」を定期的に確認し、更なるパートナーシップを深めることができると思います。

基幹相談支援センターの皆様には、自立支援協議会など会議の機会でもお世話になることが多いのですが、事前の丁寧な準備、会議当日の出席者への細やかな声掛けなど大変刺激を受けています。今後も色々とお世話になることが多いと思いますが、何卒よろしくお願いたします。

木村 祥子

国分寺地域包括支援センターなみき
管理者



基幹相談支援センターの皆様には、日頃より地域包括支援センターの取組にご支援・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

地域包括支援センターでは、地域で生活するご高齢者の保健・医療・福祉に関するさまざまな困りごとについて、ご本人やご家族、ご近所さん等からの相談を多数お受けしています。その多くは、理由や原因が「ハッキリ」していて、すぐに「スッキリ」解決とはいかず、時間をかけ、寄り添いながら、そして多方面からの支援を要するものです。その方の生きづらさや生活課題に向き合うためには、ひとつでも、そしてひとりでも多くの相談しやすい場所や人を増やし、連携することが大切と日々感じています。

基幹さんのお声掛けから実現した今回の連携会議に参加し、日々の暮らしの中で抱える困りごととは、その方がひとり暮らしであってもご家族と同居されていても、ご本人自身の課題のみならず、ご家族の特性（疾患や関係性等）、住んでいる地域性等が相まって生じるものであることに改めて気づかされました。だからこそ、支援者側には分野を越えた顔の見える関係・連携が重要であり、基幹さんの柔軟性、社協さんの機動力、地域包括の専門性等の協働による支援こそが、課題の早期発見・早期対応につながるのだと思います。

これからも、ともに手を携えていきましょう！

北邑 和弘

社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会
事務局長兼地域福祉課長



この度、基幹相談支援センターからお声がけをいただき、初めて三者による連携会議が実現いたしました。社会福祉協議会からは、地域福祉コーディネーター、自立生活サポートセンター、権利擁護センターの各相談業務を担う担当者も出席させていただきました。

これまで、基幹相談支援センターや各地域包括支援センターとは個別課題や地域課題に対し、その都度連携を図ってきました。一方で、地域生活課題はより一層複雑化・複合化・深刻化しており、「8050世帯」や「ひきこもり」などでは、一つの世帯でさまざまな要素や原因が重なり、一つの支援機関だけでなく、地域の支援機関とのつながりの中で、その課題や問題の解決に取り組むことが必要かつ、重要なことと認識しています。そして、「連携」には、お互いに良好なコミュニケーションを意識すること、お互いの役割を理解し合うこと、そして、お互いを尊重し合うことが必要だと感じています。

今回の三者による連携会議では、それぞれの支援機関の立場から見えている地域や見えてくる地域課題、そして、個別課題に対して各機関の役割や困りごとなどについて、お互いに改めて知り、認識を深める良い機会となりました。今後も三者による連携会議を継続し、より連携を深めることで、お互いの強みを活かし、「地域共生社会」の実現に向けて、共に取り組んでいきたいと思っております。

尾田 史剛

国分寺市障害者基幹相談支援センター
センター長



令和6年4月より、国分寺市障害者基幹相談支援センター長に就任しました。基幹に求められる役割は、さまざまな相談対応から、相談支援専門員の後方支援、分野を超えた支援体制づくりやネットワークの構築など、驚くほど多彩で広い範囲に及びます。そのため、関係機関の役割を知り、課題を共有し、連携していくことは、基幹の役割を果たしていく上で必要不可欠です。

令和4年度より基幹では、高齢者の相談窓口である市内の地域包括支援センターを訪問し、高齢分野と障害分野の課題の共有や連携について話し合う機会を作ってきました。近年は特に、8050世帯における障害かもしれない50代の家族や、長年ひきこもっている障害のある家族への対応に関わる課題が多く、分野を超えた「家族全体（世帯）」への支援が必要な場合が増えていることを実感しています。

そこで、令和6年度は新たに、地域包括支援センター・社会福祉協議会・基幹相談支援センターの三者による連携会議を実施しました。各支援機関の役割や課題の共有はもちろん、お互いの特性や強みを活かした支援や連携のあり方について検討し、市内の相談支援体制の充実・強化につなげていくことを目的としています。スタートしたばかりの取組ですが、継続して協議を重ねることで、関係機関の皆様との連携を強め、誰もが安心して暮らせる共生社会を目指して、尽力してまいります。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

「国分寺市障害者基幹相談支援センター Annual Report (アニュアル・レポート) 2024」

令和7年（2025年）5月16日発行

社会福祉法人 万葉の里 国分寺市障害者基幹相談支援センター

〒185-0002 東京都国分寺市東戸倉2-7-26 KOCO・ジャム

電話：042-320-1300 FAX：042-313-8823 <https://kokubunji-kikan-towaple.com/>

印刷：社会福祉法人 ななえの里
ともしび工房